

## オリエンタルホテル・ア・ラ・カルト(その11)

# ボタン一つのホテル合理化

世はまさに合理化時代、他産業と同様ホテル界にも経営合理化の波はどンドンおしよせている。伝統と信頼のオリエンタルホテルもこの怒濤だけは防ぎきれなかったようだ。

フロントに立ち寄ってみてもカウンターの裏側には巾3米ほどのスペースをとって、客室の使用状況は一目瞭然というインデキーターが置いてある。おなじものが各階のボーイステーションにあってボタン一つで「お客が入った」

「部屋整備OK」と連絡しあっている。発電所の指令室なみである。インフォメーションでもお客のメッセージ用に録音テープが用意された。宿泊室への伝言はテープに吹きこんでおいて、客室の電話についている赤ランプをつけておけば、お客がもどってきてそのメッセージを間違いない聞くことができる。

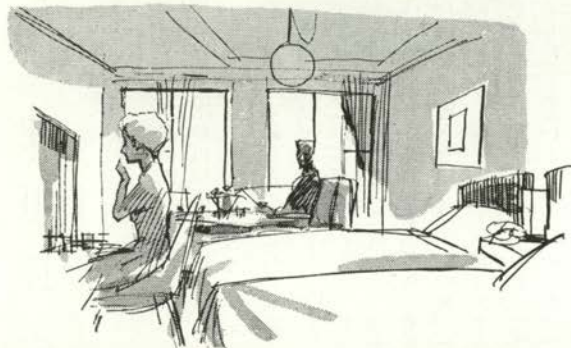
もう一つの合理化は館物の中を縦横にはしるエアシューターである。お蔭でボーイさんは随分楽になった。昔は食事や洗濯の勘定書をそのボーイさんが責任もって一階のキャッシュャーにとどけたものだ。だからチェックアウトするお客がかさなればボーイさんは大奮闘、客がエレベーターでキャッシュャーに行きつくまでに裏階段を三、四段とばして降り、伝票をも

つてゆくのである。勘定をもらいそこねたということもあつたそう。しかし今では伝票をケースに入れるだけ、ボンという音と同時にエアシューターのパイプを通じてキャッシュャーへ。

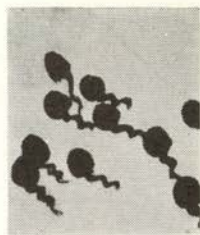
こうした時代の要請はお客の方へもあらわれている。ホテルのロビーへは原則としてノーネクタイや上着をつけない人は入れなかったもので、上着を忘れてきた人たちのために、クロークには大小十着ほどの上着が用意してあつたという。今はそこまで厳しくはなく、夏などは上着のない人やノーネクタイの人

もみかける。ホテルの副支配人でハンガリー生れのキシさんによれば「昔はゆったりとして料理の味を楽しんだお客が多かつたが、現在は飛行機がどンドン飛ぶ世の中、今日ではオリエンタルホテルで食事をしていても、明日はアメリカのレストランでという人があります。飛行機が時間を：：とキシさんの口からは飛行機が二機三機と飛び出してきた。しかしすべてが変つたのではない。暑い雰囲気はそのまま新館につつまれている。グレルの入口で子供づれの外国婦人は躊躇していたのを「ドージ」とすすめたキシ

さんは「ヨーロッパでは、小さな子供は特別の食堂で食事をします。七才にならないと普通の食堂へは連れて行けません。大きな声をだしたり、皿をひっくりかえしたりするので……でもここはちがいますよ」と日本とヨーロッパのホテルの違いを、眼鏡の底に微笑をうかべながら解説してくれた。



カット/松岡寛一



# 映画のこと 手当り次第

(16)

淀川長治

いまから五〇年たったら、今の若い人たちを、またその時代の若い人たちが、あんなコト考えていたんだね、お年寄りには……ということになるにちがいない。面白いことである。そのころは、どう変っているのであろう……ということよりも私のごとき老兵は今日の若い人たちにビックリのしどおしである。

チクオンキといつてひどく叱られた。今日びそんなコト申しませんお気をつけあそばせとひやかされた。

今日の若い人たちは……という言葉はもう、それ自体いかにも古めかしくなつたけれども……さてその今日の若い人たちは……見るからにハンサムになった。日本人のとくに男性の若いのが、こんなにも美しかったのは元禄時代以来ではないかと思う。けれどもそのゲンロク時代の男はもっと背がずんぐりしていて、とても今日の若者のごときスマートさは見られなかったにちがいない。

非常に男性的になつた眉と眉の間もわざとそらないでモジャモジャと二つの眉をつないで、それが一層男らしくしている。それからみんなひそかにボディビルとかをやっているのであらうか、その筋肉のひきしまつた盛り上りが黄色やビンヤホワイトや黒色のシャツの下につつましくかくれ、その美しさいわんかたなしである。

デイト時代すでに新婚ホームを企画し、それにはきまつて、たとえいかなるささやかな土地であらうが、まずその設計図はギャラリージからスタートする。

私はある日あやまって車のことを質問したところ、たちどころ一時間というものを車についての熱烈なる講義を聞かされた。それ以来、車、キャメラ、服地、飲みもの、海外旅行費、これらに就いては気をつけている。

「007」が非常に當つた理由の一つにボンド・ルックがある。映画はこのように多角形に愛される。まことにいいことだ。

ところで、このあいだ、それら若い人たちが五名に、ちようど手持ちの「復活」の試写券があつたのでプレゼントした。ことわつておくがこの五名はみんなまじめな学生たちである。やがてきちょうめに礼状がとどきそのうちの三名からはエンエン五枚にわたる感激文が書き綴られていた。いかに「愛」の貴さを知り得たかであつた。

これには嬉しかつたが……待てよ……と思つた。みんなあのカチューシャを初めて知つた、という発見であつた。それは、つまりこれを誰ひとり読んでいなかったというわけである。あたりまえでしょう、あんな長つたらしいものをいちいち読んでいられるのですか……ということになりそうである。

だからいけないと言うのでもなく、困りましたというのでもなく、これが今日の若い人たちの一面というだけのことである。そんな人たちに「別れ道」「クルル・ワールド」「パワリイ25時」「アメリカの影」を見てもらつたら「パワリイ25時」が一番面白くて、それと同じくらい好きだったのが「アメリカの影」で他はまあまあということだつた。

これも非常に感覚がするどいと思つた。見方がいきてある。考えてみると感覚が非常に発達してきて「美」のかんねんがクロオトになってきた。このあいだデパートが展覧会をやつていたフランス十九世紀ポスター展「ベル・エポック」にその人たちはとんで見に行つてロートレック・ムードにあこがれながら、トルストイの「復



—写真は中国の短篇「おたまじゃくしは蛙の子」のシーン—

活」はおるすだったのである。

ここで若い時代は、やがてまたその次の若い時代に進んでゆくわけである。それで、そんな若い人たちに今わたくしが、これならとおすすめしたい短篇がある。フランス？ いいえ。イタリー？ いいえ。アメリカ？ いいえ。チェッコ？ いいえ。実はそれは中国の十五分の短かい短篇の「おたまじゃくしは蛙の子」という有名な白石の絵を十二人の画家が動画にした短篇で中国詩の美しいサウンドのリズムをもった解説と中国の音楽を加えた色彩短篇である。これなどもきつと今日の若い人たちの感覚に新しい東洋の「美」を発見させるのではないかと思う。

非常にすぐれたものと、驚くほどの不勉強が混合している今日の若い人というコトバはお叱りを受けるであろうけれども、このアンバランスがこわい。

昨日、小学校の恩師が金婚式で上京され、それは何十年ぶりであろうか……という懐しい対面で、その老御夫婦を銀座に御案内し、そして東和の試写室で、これはちよいと映画は落ちたがフランスの大活劇映画をお見せした。「おまえは活動ばかり見てちつとも勉強せんなあ」と叱られた先生とその生徒と一緒に東和の試写室で試写なんかを見ているさまを私はその試写室におりながら私の別の分身がそこから離れて幽霊のようにうつとりと立ちつくして、その先生と生徒を見ているようなさつ、かくにおちたのであった。若き日は去るけれども若き日の足跡はいつも座右に聞えるものである。それは一生つきまとう。それは実に懐しい。その懐しさの中に悔いのダク音を加えぬように。

(映画評論家)



カメラ／浜岡 収  
 きく人／玉奥 章  
 キャプテン・P・カラヤノブ

## ●Captain Interview No. 12 ソ連タンカーディブ二号

# こんにちわ船長さん

赤レンガ作りの粹な山下新日本汽船の玄関をでると、雲行きのあやしかった空からとうとう雨が降ってきた。レインコートの衿をたててメリケン波止場へ急ぐ。いつもなら神戸港の岸壁から船のタラップをかけあがるのだが、今日の目的の船は、苅藻島沖のブイに繋留されているといたのでそうはいかない。メリケン波止場で山下汽船の交通船「やまはと」(二三トン)に乗りこむと雨で煙る神戸港へすべりだした。一見平穏に見えた海も船窓をたたく雨足とともに、だんだんうねりが高くなる。港外にでたとたん、ぐーんと揺れがひどくなった。昼食をまだとっていない私たちには妙な具合にこのうねりが作用する。はっきりいうと船酔いしそうなのだ。こうして約四十分。やっとめざすソ連船ディブ二号のいる海面に到着したが、すく乗船というわけにはいかない。本船は二隻のダクボートでブイに繋留作業の真最中だ。私たちのランチは揺れにゆれる。しかし私たちはタラップが降ろされる作業の間一三トンのランチの中で根気よく待つだけだった。神戸っ子の編集子はグロッキーで小さな船内のテーブルにうつぶせになったきり。これを見ていると

私の方もだんだん怪しくなってくる。『さあ、OKらしいですよ』船会社の人の声にホッとする。急いでランチの上にて、雨にすべる手すりをしっかりと握りながら、やっとの思いでタラップへとび移った。ずしんと船の重量感が足の裏に伝わってきた。

ソ連船ディブ二号はタンカーで、二三、一六七重量トン。一九六四年日本の相生港で呱呱の声をあげた。いわばお里帰りというところか。キャプテン・ルームでは入港手続と税関の手続で繁忙をきわめていた。キャプテン・P・カラヤノブは、でっぷりと肥ったあから顔。一見好々爺といった感じの海の人だった。普通の背広姿でニコやかな笑顔とともに交す握手は親愛感にあふれていた。如才なく椅子をすすめてまわり、たりないとなるとわざわざ自分が隣室から運んでくるという気安さ。やっど落ちつくつと、電気冷蔵庫をあけ、パン、チーズ、コンビーフ、ビスケット、キーキをならべ、ついでグラスをとりだして、ウォッカ、ワイン、鉱泉を好みによってつぐというまめまめしさに私たちはおとなしく見守るだけだ。壁にはレーニンの肖像が飾られていた。



「さあ、どうぞ召し上ってください。これから私のインタビュウ？ ハラシヨノ 一九〇五年生まれですから六〇才ですね。船員には一九二五年になり、一九三三年にキャプテンになりました。日本へきたのは一九二五年にはじめてきました。美しい国だと思いましたが。今回は三度目ですが、昨年は相生へこの船を受けとりに来ておりました。神戸港内には、はいったことはありませんが、設備もすばらしいことでしょう」

キャプテン・カラヤノブは、オデッサの生まれであるオデッサは、ソ連ウクライナ地方の都市で、黒海にのぞむ貿易港として有名である。造船、船舶用機械、光学機械、石油化学、織物などの工場があり、あらたに自動車工場も作られているという。歴史的にみると、一九〇五年の革命にさいして、オデッサ軍港で戦艦ボチヨムキン

号の反乱があり、一七年の革命には赤軍と反ソ白軍、外国軍の争いのただ中におかれたこともある。

「私も生まれてこの方オデッサに住んでおります。家族ですか？ 家内と子供三人。しかし長男はタンカーの船長となって航海していますよ（嬉しそうにグーンと目を細める）海ですか？ 文句なく好きです。大好きですよ。黒海のほとりですぞっ

たのですから、小さい頃からよく泳いでいました。黒海のですばらしさですか？ なんとはいえいいでしょうね（しばし瞑想にふける）海の色がなんともいいえない美しさです。海岸には森がずつとつづいて、その背後の山々の頂には白雪が輝いていて……もう絵以上のすばらしさだ」

日本は美しく特に海岸線はすばらしいというキャプテン・カラヤノブは、大の旅行好きだ。「自動車旅行が好きでね。ソ連国内はほとんど歩きまわりました。チェコスロバキヤにも足をのべしたり……。それと釣りもいい。最高の収穫？ ハハハ……。カレで五〇センチぐらいのを釣ったね。約三キロはあったよ」

一番印象に残っている航海は、南極や北極海へ捕鯨船の船長として航海した時だという。また氷海の航海は大仕事で砕氷船の世話になりながら夏の頃だけが、アルツカへの航海も忘れられないものの一つだそう。

「航海していて、夕方になると私はほんとに楽しい。仕事もすみ、太陽が洋上を真赤に染めながら沈んでゆく。これを見ているとたまらないね。海は静かだし、気分もホッとしている。あの時の気持ほど嬉しく楽しいものはないね。ところで、みなさん、食堂で食事をとっていただくさい。ずいぶん遅くなってしまいました……。」

食堂には、食事の用意が整えられていた。赤いワンピースを着た婦人が給仕をしてくれる。彼女の主人は別の船に乗って働いているということだ。この船にも四名の女子が乗船してホステスの役目を果たしていた。皆若い北欧の美人ぞろいだ。迎えるランチがくるまで船内のあちこちをチーフ・オフィサーに案内してもらおう。日本でできた船というせいかな、なんとなく動きやすい。午後四時前、出迎えるランチにとびうつる。キャプテンも、上陸する船員も皆一緒だ。黒のベレー帽、黒のレインコート。ランチの中ははずんだ声でにぎわう。メリケン波止場についた頃には、雨も小止みとなり雲が低く神戸の山々をかすめてとんでゆく。「じゃ、みなさん、ドスピダニア！（さよならの意）」

〈神戸銀行提供〉

神戸の集いから

☆日本一と自慢する 神戸ほろにが会



写真は4月例会のほろにが会風景

緑の季節がやってきた。ビールのおいしい季節になってきたと普通の人なら思うのだけれどそうではない。ビールに季節はないんだと四季を通じてビールを愛する人たちがいる。

これは、アサヒビールの肝煎りで続けられている神戸ほろにが会のめんめんて毎月の第三金曜日、神戸国際会館の地階ニュー・コウベの特別室で午後5時30分から約1時間。雨が降っても休みなく会が開かれている。この集いは会則というものはなし。ただアサヒビールを飲むことが定めになっている会費は500円の飲み放題。会長はビールファンの第一人者、古林喜楽氏(神戸大学教授)がまどめ役でメンバーは神戸の各大学の教授が主力。だから殆んどの人たちは木場ドイツのミュンヘンのビールの味を知っているというコワイ人たちでもある。

そのビールの飲みっぷりも堂にいったものでドイツのビールの歌をうたっては乾杯する。年末には会場が変わる。そして、クリスマスほろにが会と名も変わる。この会では一年の総決算とばかりに皆勤賞や精勤賞が贈られる。会が誕生してからもう満8年になる。この8年間連続皆勤賞受賞の栄に輝やく人、桑原泰義氏(神戸銀行公務部)は「ことは連続8年皆勤ということで全国ほろにが会で表彰されましたね。悲憤だ、たのは盲腸炎をやった時だね。このときは、皆勤賞もお別れだとおさらめかけたんだがベニシリンで一日だけおさえてほろにが会に出席。翌日手術をしてもらったんですヨ。もうこうなれば男の意地みたいなもので何が何でも欠席しませんよ」とその意気まことに天を衝かばり。常時出場の名選手は次のとおり。野中春水神戸大学教授、田口寛治(神戸大学教授)、深山果(神戸女子薬大教授)、甲斐勝郎(甲斐機船K・K)、城野和三郎(神戸大学教授)、金山神戸女子薬大薬学部長、遠藤忠節(神戸医大薬学部長)、藤田神戸医大外科部長、平田神戸医大小児科部長、浅井耳鼻咽喉科部長、大羽元神戸商船大学学長・加藤一郎(甲南大教授)、英文毎日松本記者・原ノズル社長、勝本山手女子短大学学長・遠藤秀磨(ダンロップ技術部長)、各氏などの多士彩々の顔ぶれ。女性4人が花をそえて

トアロード市電大丸電停前 TEL ㉸3436

**SUGIYA**

紳士服飾・婦人服飾

**セリザワ**

紳士服飾・大丸前 ㉸3900  
 婦人服飾・大丸前 ㉸1695  
 センター街 ㉸4624  
 姫路やまとやしき ㉸1221

\*御影・小原流家元会館屋上カーデにて

# Mode of Kobe

## 初夏の カラフルなツーピース

福富芳美

(神戸ドレスメーカー女学院院長・大丸顧問デザイナー)

そこぬけに澄んだ明るい空、芝生の緑は若い芽を風に  
波うたせている神戸の五月。それは若い人の力がみなぎ  
る季節です。

神戸の五月をデザインする装いは、水色の空にはえる  
色で表現しましょう。今年は、ゆれ動くプリーツやフ

レヤアのスカートがモードの中心になっていますので、  
スカートにテーマをおいて、しかも色の感じで全然違っ  
たふんいきが表現されているツーピース2点をご紹介します。



写真右のツー

ピースは、水のように明るいブルーの、薄手フアンシー  
コットンを素材にして、初夏の風にゆれる沢山のボックス  
プリーツのスカートにポイントをおいたデザインです。  
プリーツは、ややヒップから下目で開くようになってい  
るのが今年の特長。袖は着やすく、細いカラーバンドの

衿と、白

い8ツのボタンが可愛いアクセント。大学を出たばかり  
のお嬢さんや、職場に立つオフィスレディにふさわし  
い清潔なモードです。



写真左のツイブリースは、同じツイブリースでも布地が、黒・黄・ピンク・ブルーなど沢山の色を混ぜ合わせたバタクさい感じのはなやかなコットンプリントなので、それにあう華やかなムードを持つデザインのスカート。ヒップの下目から一つ一つ出てくるフレアーは、あなたが動いたときに花のように揺れて開きます。動くシルエットの楽しさは充分です。また、プリントが濃い配色ですが、衿とポーを広めの白いオーガンジイを使ってさわや

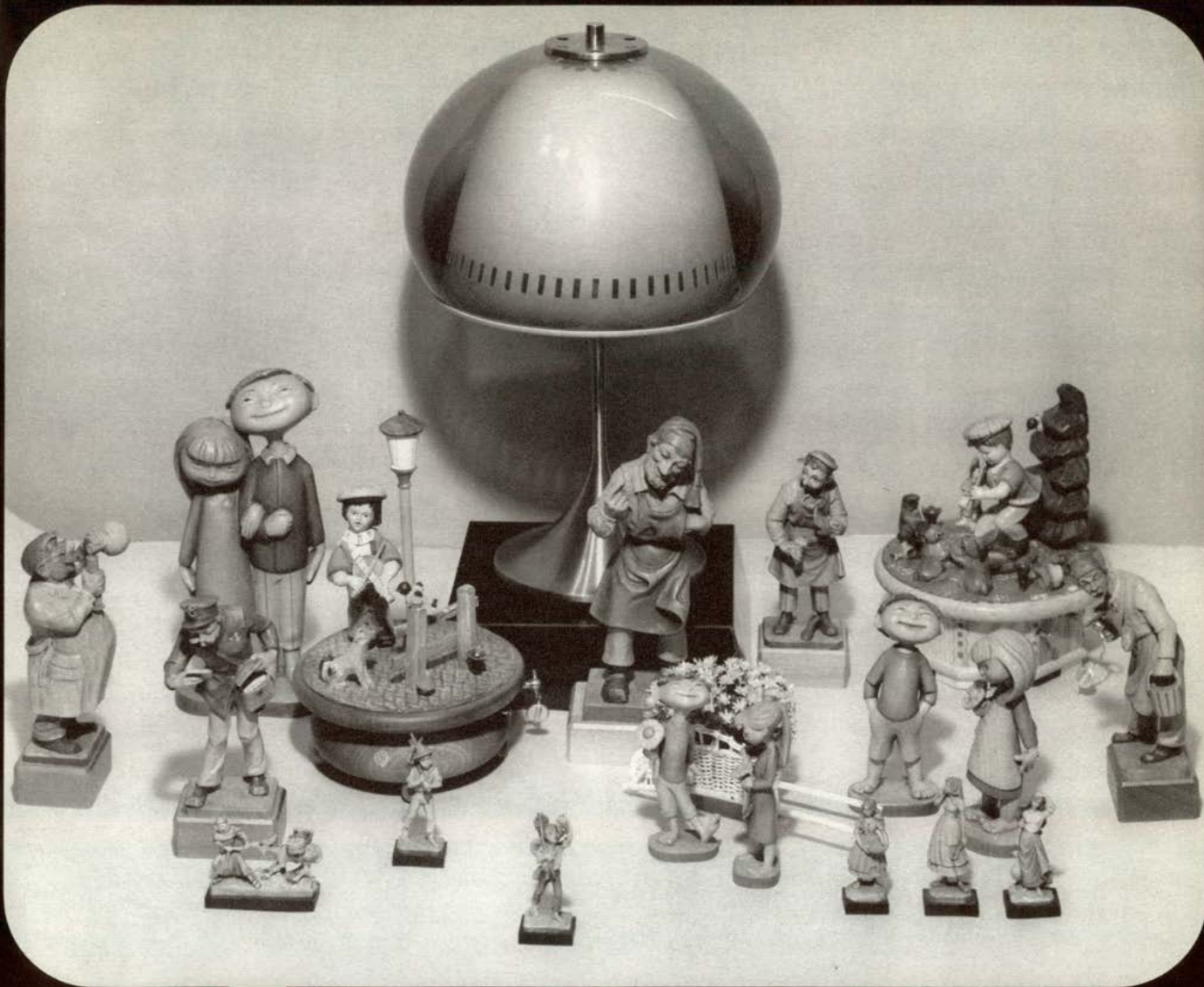


かさを出しました。神戸の初夏に着るカラフルな装いは、おしゃれな神戸っ子のセンスといえるでしょう。

カメラ/杉尾友士郎

★今月のモデルは関川美穂さん(21才)です。

甲南女子短大をこの春卒業したばかり。油絵を中西勝師に学んで、「絵を消しては消してはつみ重ねて、一つのが出来あがってゆく喜びはたまらない魅力です」という若さのなかにも芯を感じるお嬢さん。車の運転・お茶・お華と稽古ことに忙しい神戸っ子です。

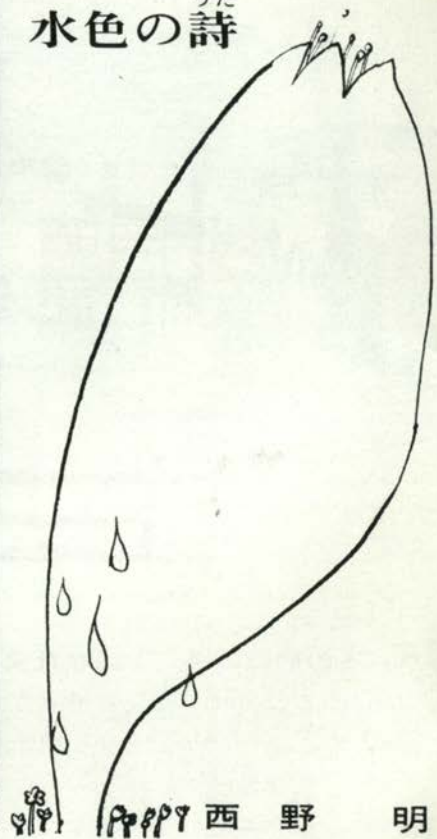


ステッキオカダのユニークコーナー♥素晴らしいイタリーの木彫品。どれも逸品揃いです。各作品に題名があるのも夢があって楽しいものです。  
 写真左より♥薬剤師 ¥8,200、薬とと共に ¥18,000、素適なたより ¥8,200、ロバと商人 ¥4,000、ヨリ  
 ンを弾く少年(オルゴール) ¥13,000、歩いてゆこう ¥3,000、素晴らしい夏 ¥3,000、靴屋さん ¥15,000  
 keep her Cbessing ¥5,000、知らない ¥5,000、花の車 ¥1,350、靴みがき ¥8,200、森の笛吹き(オル  
 ゴール) ¥16,000、ハンスとグレート ¥11,000、可愛いイリザ ¥3,000、スープの味 ¥3,000、あひると  
 ¥3,000、ハウスクリーナー ¥8,200、中央の電気スタンドはイタリー製 ¥28,000

—— 高級舶来雑貨とステッキの店 ——  
**ステッキ オカダ** 三宮生田筋  
 TEL (03) 1198



5月の髪  
うた  
 水色の詩



西野 明

〈ヘアーデザイナー〉

さわやかな5月の風、街角の花たちの唄う声、神戸の空も水色です。そんな季節にふさわしい、清潔なイメージをヘアーに表現しました。ネックラインはダイヤカット。後頭部はゆるやかな丸味をもたせて、サイドの前髪を甘くおろして、全体にあっさりした、シンプルなヘアー・スタイルです。

カメラ/杉尾友士郎



神戸っ子の憩いの場。上品な社交場として好評！

●場内は明るい照明、完全な換気などが完備され、ゴージャスな  
じゅうたん、ゆったりと座り心地よいソファ、上品なバーと、ハ  
イクラスな社交場です。ゆきとどいた係員のサービスとともに、  
国際港都コウベの新名所としてご好評をいただいております。

神戸にはじめて登場した新型ボウリング機械

●最新式のピンセッター（ブランドウィック製A2マシン・24  
レーン）です。ボールの返球は9.5秒という最も早いもので、日  
本では初めての設備です。故障が全くなく、雑音も少ないので快適  
なゲームが楽しめます。

**アガベスターレーン**

全国スターレーンチェーン





喫茶と食事の店

# レストラン・ジョーカー

## ● 独得の設計を誇るレストランです

コウベスターレーンの2階レストラン・ジョーカーは、吹き抜きの独得な設計のため、お茶や食事を楽しみながら、階下のボウリング場がひと目で見渡せます。また、室内装飾は、モダンな中にも落ちついた色調で、エキゾチックな神戸にふさわしいふん囲気です。係員のサービスもゆきとどき、洗練されたマナーとともにご好評をいただいております。

## ● バラエティに富んだメニューです

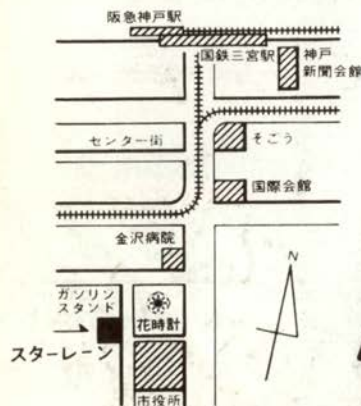
コーヒー、紅茶などのお飲み物をはじめ、カレーやスパゲティ、サンドイッチのほか、バラエティに富んだ肉料理がございます。とくにランチ・タイムには、ビジネス・ランチ(スープ付・200円)をご用意いたしております。

喫茶やお食事に、またご商談にはレストラン・ジョーカーをご気軽にご利用ください。ご会食、ご宴会など大勢さまご来店の場合は、前もってご連絡くだされば、お席をご用意いたします。

営業時間は 11.00 A M ~ 9.00 P M まで。

神戸市生田区江戸町95(花時計西側)

お問合せは TEL ㉟ 4165



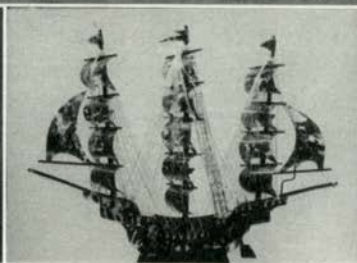
## おもな献立

飲みもの類	.....60円	ビジネス・ランチ	..... 200円
ケーキ類	.....50円	ひらめのぐらたん	..... 240円
パバロアブリン	.....70円	チキンバスケット(スープ、サラダ付)	..... 380円
カレーライス	..... 140円	ジョーカーズ・グリル(4品)	..... 500円
サンドイッチ	.....140~180円	英国風ビーフステーキ	..... 340円
スパゲティ	..... 190円より	ステーキディナー	.....900、1,100円



飛ぶ  
飛ぶ  
海を飛ぶ  
水けむりをあげて  
ホーパークラフトは  
まっしぐらに  
飛ぶ  
飛ぶ  
飛ぶ

— 和田岬沖を飛ぶホーパークラフト第1号 —



おもちゃの店

カ メ ヤ

元町通3丁目㊦0090  
三宮センター街㊦4969

センスあふれるべっ甲

太田鼈甲店

元町通1丁目 ㊦6195

紳士シャツ

大和屋のシャツ

三宮センター街 ㊦6956

あらゆる電気製品の店

元町電機

元町通6丁目 ㊦3701~5



FASHION ACCESSORY

**AKIRA**

三宮センター街 ㊦4895

舶来服飾

**マルエス**

元町通3丁目 ㊦6541

カバン

**大上鞆店**

元町通1丁目 ㊦3962

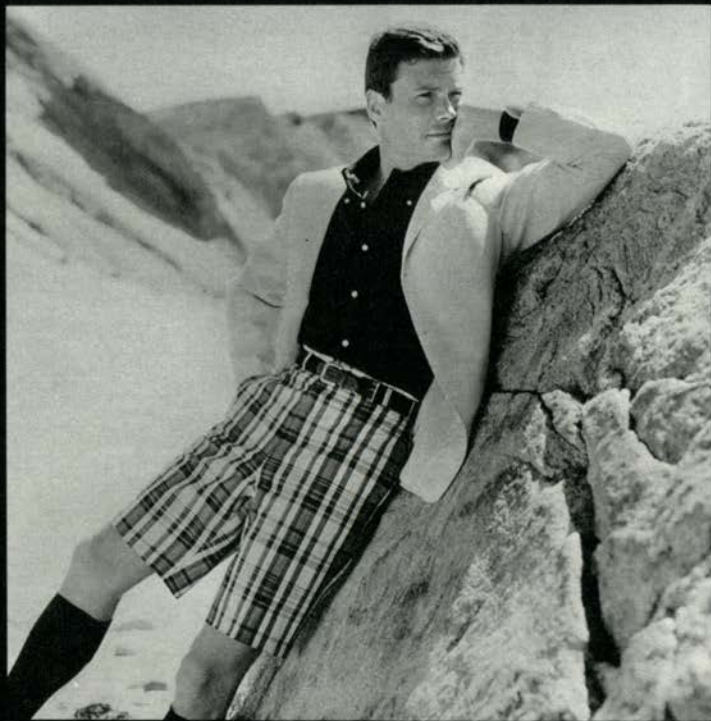
男子洋品の店

**フナキヤ**

元町通3丁目 ㊦3617

# 世界のスポーツウエア マックグレガーの気品

素晴らしいスタイル、上品なデザイン——マックグレガー・スポーツウエアはドライブ  
ゴルフ、スキー、ボートなどスポーツだけでなく、タウンウエアとしても世界最高の  
品位を誇っています。



The WONDER-FUL

by **M<sup>c</sup>GREGOR<sup>®</sup>**

神戸マックグレガーショップ サカエ 神戸元町2丁目 337885



—— パリ通信 ⑨ ——

## パリのこども

### 佐藤昭年

〈装飾美術部門留学生・在パリ〉



おやすみの時間ですよ  
もう少しだけママ——  
お風呂にはいりなさい  
もうちよつとあとで——  
子供は世界中どこでもおなじである。  
象と、アイスクリームとスーパーマンが大好きで。  
テレビっ子もたくさん。  
しかし、フランスという国、子供に見せるのにふさわしくない番組には、  
画面の右下に白いテープ状のマークが映っていて、  
お子さまオフ・リミッツ。  
くこの将来をになう大切な生命。  
そんな意識からか、常に保護、  
配慮がなされているようである。



¥ 3,000

¥ 3,200

¥ 3,200

¥ 3,400

¥ 3,400

# 靴の専門店 クロス

神戸 / トア・ロード

TEL / (33) 0998

代 表 / (39) 1781

大阪 / 阪神百貨店

TEL / (361) 1201

¥ 3,200

¥ 3,300

¥ 3,400

片方 ¥ 1,100





# 靴 新しいモード

「はきだおれの神戸」といわれるくらい神戸っ子の靴に對するセンスのよさは全国的に有名。

六甲道に行く靴、青い芽をつけた木々がすんなりと空にのびる北野町を散歩する靴、どの靴も洗練されたデザイン、斬新な色。そんな神戸の靴を求めて、大阪や京都のお嬢さんたちは、わざわざ神戸まで買いに来るといふほど評判がいいのです。そこで今月は、昭和十二年に創立していらいモード神戸をささえる靴の作成に余念のないトア・ロード「クロス靴店」をたずね、常務の岩本洋一さんに婦人靴について、いろいろお話しをお伺いしました。

## \*身についた靴のセンス

「ヒールが一足ダメになってもいいから、レインジューズなんかはくのはイヤです。」と神戸っ子はいいます。それほど靴に對する美的感覚がすぐれていて、靴はもう実用的というより、アクセサリーの一部としてはかれています。それほど靴に對する感覚がすぐれているのは、明治末期すでに、靴を作っていた神戸なのですから、歴史的にも、神戸っ子の身についたセンスの好きといえるでしょう。と同時に国際港都であるだけに、世界の流行をいち早くキャッチできるせいでもあるのです。現にクロス靴店の阪神店で人気のある靴は、神戸っ子には受け入れられず、神戸っ子に人気のある靴は、大阪ではダメということです。イタリーで、アメリカで、パリで流行の靴をすぐに自分のものにできる神戸っ子はしあわせといえましょう。

## \*春から夏にかけての流行

「ブルーベの恋人」という映画で、クラウディア・カルディナーレがはいた靴。トカゲと黒皮のコンビがあれい

らい流行して、ことしはデザインからいくと、①白を基調にして他の色とのコンビ②サイドオープン③バックレス④ボー飾り⑤深い甲。と、斬新なカットがデザインのポイントになってきているようです。今夏の新しい傾向としては、革メッシュが人気を高めてきていることです。色は、去年の秋頃からワインカラーが人気最高。黒エナメルは去年も今年も夏、冬を通して評判がよく、初夏向には白皮とエナメルのコンビが大流行。また白と紺の配色などは、クールで軽やかなタッチが人气的です。ワイン、コゲ茶、と今年は比較的濃い色が流行し、真白



写真上から一革メッシュ(白とワインレッド) ¥2800  
 エナメル(ワインレッド) ¥2200  
 バックスキン(ベージュ) ¥2200

というのは、少しづつ人気が下がってきています。

＊靴の選び方

「オシャレは靴から」といくらいわれても、服やバッグを新調するたびに靴を買っていたのでは、お小遣いがいくらあってもたりません。そこで用途別を選ぶことが大切です。靴はだいたい①フォーマル(礼装、公式用)②セミ・フォーマル③タウン④ビジネス⑤スクール⑥カジュアル(散歩)⑦スポーツ⑧リゾートの8種類にわけられますが、①と②のためにハイヒールを一足、③と④

のために中ヒールかローヒールどちらか一足、⑤⑥⑦のために、カッターシューズかスポーツシューズを一足、それにサンダル、ブーツと揃えば理想的な持ち方です。しかし、靴の寿命は一足の靴を毎日はいて、上手な人で3〜4カ月くらいですから、タウンシューズやビジネスシューズは、2〜3足を交替ではく方が長持ちします。

＊上手な買い方

オシャレに走り過ぎて、とにかくハクライ品、高級品でなくてはと、とびついて買うのはどうかと思われま

靴はまだ貿易の自由化が認められていないのですから、ハクライといわれている商品の大部分は和製のものです。革は輸入していますからハクライには違いありませんが、加工はすべて日本でされているのです。買う時の注意は、信用のある店に行き、できれば店をきめて、そこで自分の足の型をおぼえておいてもらうことが一番いいのです。足が極端な変型でない限り、オーダーはムダだし、店に並べているもので足にあったのを買うのが経済的です。又買うのは午後の2時〜3時頃が一番足にピッタリして、いつもスッキリはくことができます。



美しさを創る...

**アスター・ニュートン**

トア・ロード 33 1818

五月はキュートな帽子で



婦人帽子

**マキシン**

神戸・トアロード  
TEL神戸33-6711-3

東京・銀座3-2  
TEL東京535-5041

若さと  
スタミナを  
プラス

扇雀オコシ



鴈治郎飴本舗

本社  
神戸湊川神社電停前  
電話③41242

営業所工場  
生田区仲町通4丁目  
電話③42663

伸びゆく 菊水總本店  
瓦せんべい

...  
瓦せんべいを創って  
百年の歴史が地上四階  
地下一階の近代的オートメイ  
ションビルを完成しました

...  
創業明治元年



株式会社

菊水總本店

TEL③41310・1382・9874